



大阪市立大学文学部授業開放

地域に開かれた大学をめざして

主担当者 進藤雄三教授（文学研究科）

関係組織・協力機関等 大阪市立大学文学研究科 地域貢献推進委員会、大阪市住吉区役所教育文化課

連携・協力者 地域貢献推進委員会委員、住吉区役所教育文化課職員、住吉区民（33人）

期間 2017年11月6日～2017年11月14日

対象地域



1 きっかけと展開

- 2016年の6月1日に、大阪市住吉区役所教育文化課（甲）と本学文学研究科（乙）との間で、「連携に関する覚書」が締結された。その第1条には「甲においては住吉区における文化の振興、学校・教育コミュニティへのサポート、乙においてはその知見を活かした住吉区内での地域貢献力の強化のために、相互に連携・協力することを目的とする」と記されている。文学研究科による「授業開放」は、その覚書に基づき始められた最初の企画であり、地域貢献推進委員会と住吉区役所教育文化課の連携のもとに、住吉区民を対象に、同年10月17日から27日にかけて、文学研究科が開講している科目のなかから14科目を、特定日時の一時限に限り開放した。
- 上記の授業開始を引き継ぎ、2017年11月6日から11月14日にかけて、前年と同様、住吉区民を対象に、14科目の授業を一時限に限り開放した。

2 概要

- 2017年の概要は以下の通りである。
 - (1) 日時：11月6日～11月14日
 - 場所：杉本キャンパス 1号館、全学共通教育棟、文学部棟
 - (2) 科目：国文学史Ⅱ、日本史特講Ⅳ、社会学特論Ⅱ、哲学史通論Ⅱ、原語比較論演習、英語学概論Ⅱ、人間文化概論Ⅱ、文化理論、学習心理学特論、表現文化特論、フランス語学概論、地誌学Ⅱ、中国語演習、教育学概論、総計14科目。
 - (3) 広報と申込：開講科目と開講日時が確定した段階で、住吉区役所の広報媒体・HPで「授業開放」の概要（科目名・開放日時・担当者・定員・授業概要（100字程度）の一覧）を提示し、受講の募集を区民に通知する。
 - (4) 受講手続き：受講を希望する区民は、住吉区役所に受講を申込み、受講票を受け取る。申込に際しては、複数の授業を希望することができるが、各授業担当者が設定する「受け入れ可能人数」を超過した授業に関しては、受けられない場合がある。受講者は、受講の折に講義担当者に受講票を提示し、受講確認を受ける。

3 成果や課題

(1) 得られた成果

- 参加者からは、久しぶりに勉強の機会を得られて楽しかった、専門的な知識の一端に触れることができ有益だったなど、総じて肯定的な意見が聞かれた。また、学生にとっても一般社会人が通常授業に参加することによる、学習意欲・学習態度への肯定的効果も指摘された。
- また、この事業は、「地域に開かれた大学」というイメージを、参加者に明確に意識させるという効果を持ったことも確かである。単に住吉区民の人たちだけでなく、授業担当者を含めた文学研究科のメンバー、授業に参加している学生に対しても、大学と地域区民との距離感に与えたアナウンスメント効果は、大きいと思われる。

(2) 地域との関係で工夫した点

- 住民の方々の個人情報を扱う、という点において細心の注意を払った。データの管理在住吉区役所の方で一括管理し、大学に伝えられた情報は、事業の終了次第廃棄した。

(3) 感想と今後の課題

- 「地域に開かれた大学」を象徴する、可視化する事業である、という点においては、本事業はきわめて先進的な事例であると言えるかと思う。
- しかし、課題は多い。その最大の一つは、コストに見合うベネフィットが得られているかである。現状では、地域貢献委員会が文学部の全コースに1科目づつの提供を依頼し、担当教員を決め、授業概要を作成する。他方、住吉区役所では、広報・申込受付の作業がある。前年の反省を踏まえて、2017年では広報期間を長めにとったが、受講生の数という点で大きく改善したとはいえない。また、授業が平日に開催されているところから、受講生の年齢層に偏りがあるという点も検討課題である。
- 上記の課題を踏まえて、「地域に開かれた大学」の理念を継承しつつ、別様のあり方を検討している。

（事例報告者：進藤雄三）

大阪市立大学文学部 住吉区民への授業開放

大阪市立大学文学部は、住吉区との連携強化に基づく地域貢献事業として、文学部の授業を住吉区民に開放する事業を行います。

時期：平成29年11月6日（月）～11月14日（火）
場所：大阪市立大学杉本キャンパス各教室

・期間中の文学部授業概要を、随時希望する区民のみまに開いたいたします。大阪市立大学文学部の授業にご関心をお持ちの区民のみまに追加を希望しております。

・開講する授業科目、開講日、開講時間、担当教員、開講する日の授業の概要を参考に、参加を希望する授業科目を把握し、申し込みを行ってください。申し込み受付は11月13日（金）となります。

・各授業には受け入れ可能人数が設定されています。上限を超える参加申し込みがあった場合は抽選となります。

・参加受付が完了しましたらメールまたはウェブサイトにて参加票を送付いたします。当日は担当教員に参加票をお渡しください。

・申し込みに関する問い合わせ先：担当教員 <http://www.city.osaka.lg.jp/wakayoshi/page/0000407284.html>
住吉区役所教育文化課 担当：佐藤 TEL: 0694-9550 FAX: 0692-5355
E-Mail: tu012@city.osaka.lg.jp

・各授業についての問い合わせ先：
大阪市立大学文学部 地域貢献委員会 chikouken@lit.osaka-u.ac.jp

開講科目	開講日	時間	担当教員	受け入れ可能人数	授業概要	備考
国文学史Ⅱ	11月6日（月）	10:40-12:00	佐藤雄三	20	国文学史Ⅱ（国文学史Ⅰの履修者向け）	128
日本史特講Ⅳ	11月6日（月）	13:00-14:30	佐藤雄三	20	日本史特講Ⅳ（日本史Ⅰの履修者向け）	128
社会学特論Ⅱ	11月6日（月）	14:45-16:15	佐藤雄三	20	社会学特論Ⅱ（社会学Ⅰの履修者向け）	128
英語学概論Ⅱ	11月6日（月）	16:30-18:00	佐藤雄三	20	英語学概論Ⅱ（英語Ⅰの履修者向け）	128
人間文化概論Ⅱ	11月7日（火）	10:40-12:00	佐藤雄三	20	人間文化概論Ⅱ（人間文化Ⅰの履修者向け）	128
文化理論	11月7日（火）	13:00-14:30	佐藤雄三	20	文化理論（文化理論Ⅰの履修者向け）	128
学習心理学特論	11月7日（火）	14:45-16:15	佐藤雄三	20	学習心理学特論（学習心理学Ⅰの履修者向け）	128
表現文化特論	11月7日（火）	16:30-18:00	佐藤雄三	20	表現文化特論（表現文化Ⅰの履修者向け）	128
フランス語学概論	11月7日（火）	18:15-19:45	佐藤雄三	20	フランス語学概論（フランス語Ⅰの履修者向け）	128
地誌学Ⅱ	11月7日（火）	10:40-12:00	佐藤雄三	20	地誌学Ⅱ（地誌学Ⅰの履修者向け）	128
中国語演習	11月7日（火）	13:00-14:30	佐藤雄三	20	中国語演習（中国語Ⅰの履修者向け）	128
教育学概論	11月7日（火）	14:45-16:15	佐藤雄三	20	教育学概論（教育学Ⅰの履修者向け）	128
国文学史Ⅱ	11月8日（水）	10:40-12:00	佐藤雄三	20	国文学史Ⅱ（国文学史Ⅰの履修者向け）	128
日本史特講Ⅳ	11月8日（水）	13:00-14:30	佐藤雄三	20	日本史特講Ⅳ（日本史Ⅰの履修者向け）	128
社会学特論Ⅱ	11月8日（水）	14:45-16:15	佐藤雄三	20	社会学特論Ⅱ（社会学Ⅰの履修者向け）	128
英語学概論Ⅱ	11月8日（水）	16:30-18:00	佐藤雄三	20	英語学概論Ⅱ（英語Ⅰの履修者向け）	128
人間文化概論Ⅱ	11月8日（水）	18:15-19:45	佐藤雄三	20	人間文化概論Ⅱ（人間文化Ⅰの履修者向け）	128
文化理論	11月9日（木）	10:40-12:00	佐藤雄三	20	文化理論（文化理論Ⅰの履修者向け）	128
学習心理学特論	11月9日（木）	13:00-14:30	佐藤雄三	20	学習心理学特論（学習心理学Ⅰの履修者向け）	128
表現文化特論	11月9日（木）	14:45-16:15	佐藤雄三	20	表現文化特論（表現文化Ⅰの履修者向け）	128
フランス語学概論	11月9日（木）	16:30-18:00	佐藤雄三	20	フランス語学概論（フランス語Ⅰの履修者向け）	128
地誌学Ⅱ	11月9日（木）	18:15-19:45	佐藤雄三	20	地誌学Ⅱ（地誌学Ⅰの履修者向け）	128
中国語演習	11月10日（金）	10:40-12:00	佐藤雄三	20	中国語演習（中国語Ⅰの履修者向け）	128
教育学概論	11月10日（金）	13:00-14:30	佐藤雄三	20	教育学概論（教育学Ⅰの履修者向け）	128

※ 概観について：冒頭にのべている数値は1号館、1号館以外の教室は文学部棟、11号館は併設校となります。

授業開放の概要

大阪市立大学文学部授業開放 参加申込用紙

・必要事項を記入のうえ、住吉区役所教育文化課（tu012@city.osaka.lg.jp）までお申し込みください。

・各授業についてのお問合せは、大阪市立大学文学部 地域貢献委員会（chikouken@lit.osaka-u.ac.jp）まで。

名前	年齢

住所

勤務先・通学先住所
(区外在住の方のみ)

電話番号

FAX番号

e-mail

希望の授業科目	希望の日	希望の時間
1	11月6日（月）	10:40～
2	11月6日（月）	13:00～
3	11月6日（月）	14:45～
4	11月7日（火）	10:40～
5	11月7日（火）	13:00～
6	11月7日（火）	14:45～
7	11月7日（火）	16:30～
8	11月7日（火）	18:15～
9	11月8日（水）	10:40～
10	11月8日（水）	13:00～
11	11月8日（水）	14:45～
12	11月8日（水）	16:30～
13	11月8日（水）	18:15～
14	11月9日（木）	10:40～

最大3つまで
応募できます

＜申込み・問合せ先＞
558-8501 大阪市住吉区住吉3-1-5-55
住吉区役所教育文化課 担当：佐藤 TEL: 6694-9550 FAX: 6692-5355
E-Mail: tu012@city.osaka.lg.jp
（※ 申込は、11月13日（金）15時までにお願いします。）
※ 送付・窓口持参の場合は、結果通知の受付入力が必須です。
＜申し込みの注意＞
平成29年10月13日（金） 必着

授業開放の申込用紙

全国同時七夕講演会 宇宙（天文）を学べる大学合同進学説明会



大阪市立科学館と理学研究科の連携活動



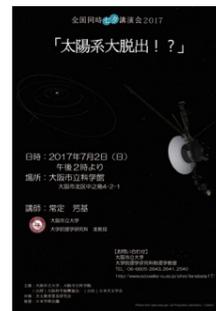
- 主担当者** 七夕講演会：神田展行教授・石原秀樹教授・中尾憲一教授・荻尾彰一教授・丸信人准教授・常定芳基准教授・伊藤洋介准教授（理学研究科）
進学説明会：福江純教授（大阪教育大学）
- 関係組織・協力機関等** 大阪市立科学館（この他、七夕講演会については、（公社）日本天文学会、（公財）大阪科学振興協会、天文教育普及研究会、日本学術会議、進学説明会については、関西地区を中心とする10以上の大学から関連分野の研究者が毎年参加）
- 連携・協力者** —
- 期間** 七夕講演会：2009年～現在（毎年7月開催）
進学説明会：2008年～現在（毎年6月開催）

1 きっかけと展開

- 全国同時七夕講演会
 - ・ガリレオ・ガリレイが世界で初めて望遠鏡を宇宙に向けてからちょうど400年であることを記念し、国際連合・ユネスコ・国際天文連合が、2009年を「世界天文年」と定めた。
 - ・この年、日本天文学会が学会員に向けて「全国同時七夕講演会」の開催を呼びかけ、これに対して、本学と大阪市立科学館の関係者が応えて講演会を企画・開催した。
 - ・以降、毎年継続して開催。
- 宇宙（天文）を学べる大学合同進学説明会
 - ・大阪教育大学の福江先生の呼びかけによって、2008年に関西地方の18大学から関係者が参加して始まった。
 - ・以降、毎年継続して開催。

2 概要

- 七夕講演会
 - ・毎年「七夕」に近い週末に、本学の教員を講師とする講演会を開催している。その他の講演者を加えた、規模の大きなものになったこともある（2012年、2013年）。
 - ・全国では、60カ所で開催されている（2017年の実績、日本国外の1件を含む）。
 - ・2012年には（公財）大阪市博物館協会と合同で開催した。
 - ・2013年には講演会、パネルディスカッションとプラネタリウム上映を連動させた「ブラックホール・ナイト」を企画・開催した。
- 合同進学説明会
 - ・参加大学の大学説明プレゼンテーション、各大学のブースでの個別相談、宇宙物理・天文に関する講演会で構成されている。
 - ・毎年、高校生を主とする学生50人に加え、父兄と高校教員など50人の合計100人程度が来場する。これに対して20大学から30人程度の教員が参加している。
 - ・2017年から幹事の役割を徐々に大阪教育大学から本学に移行（2018年に完全移行の予定）。
 - ・合同進学説明会は関西地方で始まったが、現在では、関東、中国・四国、九州でも開催されており、本学は中国・四国地区の合同説明会にも参加している（2017年より）。



2017年七夕講演会の案内リーフレット



2018年進学説明会の案内リーフレット

3 成果や課題

(1) 得られた成果

- 七夕講演会
 - ・市民講演会として市民に浸透しており、数多くのリピーターを迎えるようになっている。また毎回ほぼ満員（会場の関係で定員は80人）の盛況で実施されている。
- 合同進学説明会
 - ・説明会への参加を経て、実際に参加大学に入学する例もあり、説明会としての機能を十分果たしている。
 - ・関西地方の研究者間、研究者と科学館の交流の場の役割を果たしており、それによって新たな社会貢献事業や研究者交流事業が生まれている。本学大学院理学研究科が関係したものを例に挙げると、
 - ・大阪教育大学の福江純教授を非常勤講師として招聘（2010年度、大学院集中講義を担当）
 - ・「科学館大好きクラブ」で講演（2013年：荻尾彰一、2015年：中尾憲一）。
 - ・国際光（ひかり）年を記念した大阪市立科学館における企画展「光とあかり」に研究紹介として展示品などを提供（2015年：神田展行、杉崎満、井上慎、鐘本勝一、荻尾彰一）。
 - ・スペシャルナイト「一般相対性理論誕生100周年市民講演会」を開催（2015年：中尾憲一、田越秀行）。

(2) 地域との関係で工夫した点

- 七夕講演会
 - ・参加申し込みの方法について、試行錯誤を繰り返し、現在は「事前の申し込み不要」とすることで、手間を減らし、同時に参加者にも不満が生じないようにしている。
- 合同進学説明会
 - ・ポスター、パンフレットだけでなく、実験装置の一部の実物を持ち込むなど、展示や説明を工夫している。
 - どちらのイベントも高校生が参加しやすい日程となるよう、開催日を慎重に選定している。

(3) 感想と今後の課題

- 七夕講演会
 - ・市民にも恒例行事として定着している実感があり、運営もこなれてきているが、若い世代（中高生）の参加者数を増やすような取り組みや工夫がしたいと感じている。
 - ・宇宙物理学・天文学を専門分野とする本学教員の講演が一巡した後の、「七夕」を冠した講演会のあり方を検討する時期が来ている。講演内容の分野を広げるか、学外に講演者を求めるか、市民の需要も考慮した上での検討が必要である。
- 合同進学説明会
 - ・2018年から正式な幹事校を引き受けることから、広報の形態も変わるので、その影響を見極めて来年度以降に改善していく必要がある。

（事例報告者：荻尾彰一）



2017年七夕講演会の様子



2017年進学説明会の様子
（大学プレゼンテーション）